

授業科目(ナンバリング)	薬品物理化学Ⅱ (NC207)			担当教員	市川 和洋		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
前半は反応速度論で化学反応、イオン平衡および酵素反応の基本的性質及び後半は化学の基礎概念である量子化学的な物の見方・考え方の理解を目的とする。反応速度学についての基礎知識、基本法則を理解出来るようになる。後半量子論の誕生(マクロの性質とミクロの性質)、原子の世界(原子のなりたち)、分子の世界、化学結合の成立を物理化学的観点から理解することを目標とする。量子化学を理解するために、それに関わる法則、現象に関する基礎知識を学習し、マイクロレベルで包括的に理解できるようになるとともに、量子化学の基本的法則を理解出来るようになる。							①④⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)反応速度に関わる因子や反応次数とその反応機構を説明できる。 (2)量子化学とその概要を説明できる。 (3)化学結合の種類とその特徴を説明できる。				(1)ミニテスト、課題 (2)中間テスト (3)定期試験	(1) 15% (2) 15% (3) 70%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
ミニテスト、宿題・演習、中間試験、定期試験の結果で、厳正に評価する。その結果はポートフォリオ等を利用してフィードバックする。							
授業の概要							
前半は反応速度論を学び化学の基礎となる問題を理解する力を養えるようにする。後半は全ての物質の化学的な性質は、その物質の構成単位である微視的な粒子(原子・分子)の性質によって決まるという観点から講義する。量子の世界を支配する法則の概要とその化学への応用を学び、物質の構造や化学反応性等を講義する。最低限必要な式は理解し、数式に慣れてもらいたい。本講義は、理解しにくい事項や誤解しやすい箇所はできるだけゆっくりと説明すると共に、演習等を積極的に取り入れ、出来る限り平易に講義したい。前回の授業内容の理解度をミニテストにて判断する。講義を主体とし、教科書及び別途配布するプリントに沿って講義を進める。また、内容理解度を深めるために、問題集やその解説集を電子媒体にて配布する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。							
教科書・参考書							
教科書：配布プリント及び「薬学物理化学」第5版(廣川書店) 参考書：「薬学物理化学演習」第3版(廣川書店)を使用。 指定図書：「薬学物理化学」第5版、「薬学物理化学演習」第3版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
配布されたプリント及び教科書・参考書等を利用して予習・復習をしっかりとして下さい。参考書は図書館を積極的に利用して下さい。またオフィスアワー(月～金曜日：8:30-20:00：薬学研究棟P306研究室：市川)は前もって数人あるいはクラス単位で臨み、また空き時間帯を探して質問時間として設定することを勧めます。また、授業中の私語を慎み、遅刻、途中退室は理由を報告すること。欠席の場合は理由を事前・事後報告すること(メールの場合は、送信者を明記して ichikawak@niu.ac.jp まで連絡すること)。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	化学反応速度論	概要、一次反応、 n 次反応、反応速度に及ぼす因子	教科書 p185～192 を予習しておく	166-169
2	イオン化平衡論：I	概要、平衡定数、アミノ酸のイオン化平衡	教科書 p193～197 を予習しておく	170, 171
3	イオン化平衡論：II	アミノ酸のイオン化平衡、タンパク質の等電点	教科書 p197～213 を予習しておく	171, 861
4	酵素反応速度論：I	概要、Michaelis-Menten 理論	教科書 p214～218 を予習しておく	172
5	酵素反応速度論：II	阻害反応機構	教科書 p218～222 を予習しておく	172
6	高分子物性化学	分子量測定、構造解析、相互作用	教科書 p11～35 を予習しておく	117-119
7	中間試験	1～6回の内容に関する試験	1～6回講義の復習をしておく	117-119, 166-172, 861
8	原子スペクトル	空箱分光器を作ろう！原子スペクトルとリッツの結合則：	教科書 p226～229 を予習しておく	127
9	量子力学と原子の構造：I	原子の模型とボーアの理論：物質波と電子回折：、粒子性と波動性	教科書 p223～231 を予習しておく	117-119
10	量子力学と原子の構造：II	原子の世界：シュレーディンガーの波動方程式、波動関数は何を表すか？	教科書 p231～237 を予習しておく	117-119
11	量子力学と原子の構造：III	角運動量とゼーマン効果：電子スピンと核スピン、パウリの排他原理とフントの規則、分子の世界：等核(異核)二原子分子	教科書 p240～261 を予習しておく	128, 129
12	化学結合 I	原子価結合、分子軌道理論、原子軌道の混成、中間試験：錯体	教科書 p255～279 を予習しておく	117-119, 127-129, 132, 140
13	化学結合 II	分子間相互作用、イオン結合、分子間力の様式(双極子—双極子相互作用)	教科書 p185～222 を予習しておく	117-119, 127-129, 132, 140
14	化学結合 III	電気陰性度、水素結合、水の構造と性質、疎水性相互作用	教科書 p289～303 を予習しておく	117-119, 127-129, 132, 140
15	分子間力	分子間力の様式(双極子—双極子相互作用、イオン—双極子相互作用)	教科書 p282～287 を予習しておく	117-119, 127-129, 132, 140
16	定期試験	筆記試験(90分)		

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。